

2012 Report from ^{Faculty Development} **FD Salon** of RUCED
12-3

龍谷大学 FDサロンレポート（特別号）

シラバスに関する研修会

「誰のため、何のためのシラバスか～シラバスの書き方、使い方」

講師：中井 俊樹氏（名古屋大学高等教育センター）

日時：2012年11月5日（月）17:00～18:30

場所：深草学舎22号館1階107教室

I. 課題：「指示に従って工作をしてください」

早速、一つ皆さんにやっていただきたいことがあります。名古屋大学の新任教員研修を皆さんにも体験していただこうと思います。お手元の黄色い紙を使い、指示に従って工作をしてください。ただ、一つだけお願いがあります。「質問はしないでください」ということです。



それでは、説明を始めます。

紙を半分に折って、右上を斜めに折ってください。多分、言いたいことがあると思いますが、我慢してついて来てください。そして、その折り曲げた部分を切り取ってください。

また、紙を半分に折って、右上を斜めに折ってください。そして、その折り曲げた部分をまた切り取っ

てください。

もう一度、紙を半分に折って、右上を斜めに折ってください。そして、その折り曲げた部分をまた切り取ってください。

それでは、残った紙を広げてください。周りとは見比べるために、頭の上に上げていただけますか。皆さん、できたでしょうか。大体1割ぐらいの方が成功ですね。

一方で、別の形になった方がいますね。ちょっと見せてもらえますか。すごく小さいものや、穴が開いた方も見えますね。ありがとうございました。



先ほどの指示の意図は、多様なものができるということではなく、チョウチョを作ってほしいという

ことだったのです。皆さんにここでよく考えてほしいのですが、パワーポイントを使って熱意をもって伝えたはずなのに、なぜ全員がチョウチョが完成させられなかったのでしょうか。

質問ですが、自分に責任があるという人は、どれぐらいいますか。誰もいません。これを学生に聞くと、結構手が挙がり、「次はきちんとやるのでもう一回やらせてください」と言うのですが、皆さんは私の指示が悪かったと思っているということですね（笑）。

考えてほしいのは、では、何が悪かったのかということです。グループで、悪かったと思う点をホワイトボードに書いてみてください。

（グループワーク）



そろそろよろしいですか。

まず、こちらのグループを見てみましょう。これは、「指示に選択肢が複数ある」。多分解釈の問題ですね。意味としては「半分」と「右上」という言葉が非常に混乱を与えたということかと思います。

よく似た意見もあります。各指示の対象が、元の紙を指しているのか、切り取った紙なのかが分からなかった。説明が非常に不明確だという共通点があります。

この研修では同様に説明のあいまいさを指摘され

ることが多いのですが、今日はそれ以外の意見も挙げていただいているようです。

こちらのグループは「作業内容を確認するプロセスがなかった」ということを挙げていただきました。「目的が不明確であった」という意見については、実は私はちゃんと伝えていたのを覚えていますか。「この紙はメモ帳ではありません」と。覚えていますね。「この後の作業でキチョウになります」。「黄蝶」、黄色いチョウですね（笑）。だから一応、目的は伝えていました。

でも、「目的が不明確」という指摘があるということは、伝えたけれども、残念ながら理解されなかったということです。

あとは「質問の機会がなかった」というものは初めのお願ひでもあったのですが、質問の機会があれば、ちゃんと質問して、ちゃんと終えたという趣旨だと思います。

ありがとうございました。名古屋で6年ぐらい同じ研修を実施しているのですが、うまくいかなかった原因は、大体このようなことが挙げられます。

「目標を伝えていなかった。最終成果を見せなかった。説明があいまいだった。一方的に説明し、質問を受け付けなかった。作業のプロセスをチェックしなかった。メディアをうまく活用していなかった」などです。

なぜこの研修を実施しているのかというと、私たちの授業にも当てはまるのではないかなと思うからです。先ほど説明の際に使用したメディア（PowerPoint）もそれで効果が上がったわけではなく自己満足ですね。

考えるべき重要事項として、次のような内容が挙げられます。自分たちの知っていること、できるこ

とを教えるのは、難しいということ。教えるための道具も、単に使えばうまくいくわけではないということ。

もう一つ大事なのは、最初から全ての課題を指摘できた人はあまりいないと思います。教育活動はそういうところがあって、いろいろな視点で見て、問題点が見えて、解決の方向が見えてくるという部分があると思うのです。そういう意味では、ノウハウを共有することは非常に大事だと伝えなかったわけです。

これはシラバスにも、当てはまる場所があると思います。目標をきちんと伝えることや、メディアをどううまく利用するか、いろいろなことがかわってくるのではないかと思います。またFDのあり方も、シラバスに関するノウハウをきちんと共有することが大事ではないかと思うのです。

Ⅱ. 説明

では、次にこの研修の目的について説明します。この研修の目的は、授業設計についての知見やノウハウを紹介することで、シラバスの書き方や使い方に関する議論のきっかけを提供したいということになります (p.4)。

構成は「授業設計とシラバス」、「授業設計の6つの指針」、「シラバスの各項目別のポイント」の3つです。内容については、これは使えると思われる部分を、つまみ食いでも結構ですので、使っていただければと思います (p.5)。

1. 授業設計とシラバス

○授業設計とは

まず、この授業設計という概念は、授業を設計すること、授業の青写真を描くことであり、テーマ、科目の学習の目標や内容、方法、評価などの全体像

を設計することとされています。シラバスは、その全体像を伝えるための手段であり、比喻で「学びの地図」と言われることもあります。

なぜ、この授業設計が大事かという議論ですが、教育学では、学習成果や満足度に高い相関があると言われています。またその習得自体は比較的容易であるということです。人は急に字がうまくなったり、急に話し方がうまくなるのは難しいのですが、デザインに関しては、それらと比較すると容易であることが一つの特徴です。また、一度丁寧にシラバスを作ると、次年度以降の授業が楽になるという要素もあると思います (p.7)。

そして、学生はシラバスの充実を求めています。名古屋大学でアンケートを取ると、授業の内容が全然分からないとか、そもそもタイトルと内容が合っていないとか、いろいろな意見が出てきます。

また、シラバスはカリキュラムを考える上で非常に貴重な資料になります。教育は、基本的にチームプレーなので、過度の重複があったり、大事なものが抜けていたりすると問題と言えます。

それ以外としては、教員のキャリアに関する側面もあります。例えば採用や昇進時に、シラバスの提出が必要な大学が増えてきたということも聞きます (p.7)。

○学生の学習成果への効果

授業設計の効果がどれくらいあるかという海外の研究もあり、ある程度相関が高いと言われています。シラバスをしっかりと作ると、例えば教員の準備、コースの設計、授業目標と内容の整合性、期待される学習成果の明確性、理解度が上昇し、最終的に成果への反映について相関が高いと言われています。

それから、授業目標や履修要件、クラスの水準や進捗、評価の問題も、シラバスに記載することがで

きるので、学習に影響を与えと言えます。

このようにシラバスを充実させることは、教員、学生双方にとって意味があるということになります (p.8 ~ 10)。

○授業設計において大事な問い

授業設計をするときに大事な問いが三つあると、昔から教育学では言われています。そもそも到達目標はどこなのか。それをどうやって目標に到達するのか。最後に目標に到達したかどうかを、どのように評価するのか。この三つが大事だと言われています。

これを簡単な言葉で言うと、目標、方法、評価となると思いますが、大事なのはその三つが同じ方向を向いているということではないかと思えます (p.11)。

○シラバスとは

シラバスの定義は答申によって変わってきていますが、一番新しい定義としては、「学生が各授業科目の準備学修等を進めるための基本となるもの」「学生が講義の履修を決める際に資料になる」「教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる」ものと書かれています (p.12)。

なぜシラバスが必要かという、大学設置基準に書かれているからということが一つ挙げられます。外部者による評価においても重要な基準になるということです。

大学設置基準第25条の2で、「大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする」と定め、2においても、成績評価を明確にしようということが書かれています。認証評価などにおいて、シラバスが注目される一つの理由です (p.13)。

○日本のシラバスの特殊性

先ほどの審議会の定義を見て、少し疑問に思われた方がいると思いますが、それは日本のシラバスの特殊性に起因すると私は思っています。日本の場合、大体90年代半ばからシラバスが各大学で使われたのですが、日本では目的の異なる二つのもの、もしくはそれらを統合したものをシラバスと呼んでいます。授業要覧と呼ばれる授業選択のためのものと、授業・学習を支援するものの二つが、混在しているところに難しさがあると言われています。今、よく議論になるのは、授業選択よりも学習を推進・促進するシラバスという側面です。

もともとアメリカではコースカタログという選択のための資料と、授業の中で使うシラバスとが分かれています。

前者は履修前の時期に配られ、後者は初回の授業で配るものでした。日本にはそれらが混同され導入されたという経緯があります (p.14、15)。

○シラバスの役割

シラバスの役割を整理しますと、一つは、学生の授業選択のガイドという側面です。教員から見ると、優れた受講生を募集するツールにもなります。優れた学生が履修したくなるように書いておくという考え方ですが、できるだけクラス規模を小さくしようと、授業内容の難しさをアピールするような先生もいらっしゃいます。いずれにしても学生とのコミュニケーションのツールという役割です。

学生と教員の契約書という役割もあります。学生と教員の双方が授業の成立に責任を持つことを促します。例えば「今日、提出するレポートがあるなんて、知りませんでした」と言われたとしても、「初回の授業でシラバスを配付して、ちゃんと約束したでしょう」と言うことができるということです。ま

た、成績評価の方針も、きちんと初めに明確にしておけば、後からもめることは少なくなるということです。ただ、これは学生に対して伝えるだけでなく、教員もシラバスに沿って授業を進める義務を負うことになります。

ただ、本当にシラバスに沿わなければいけないのかについて、私は学生に了解を得た上で変更するのはよいと考えています。

また、教員と学生の人間関係づくりのツールとして重要だと言われることもあります。あとは授業の雰囲気の伝達、授業全体のデザイン、カリキュラム全体に一貫性を持たせる等の要素があると言われていいます。

この役割のどれが大事かというのは、各大学で議論すべきことだと思われそうですが、こういった要素があるということの認識が必要です (p.16、17)。

○シラバスの項目の例

各大学でシラバスの項目は異なります。例えば、愛媛大学等はかなり多いです。今回、事前に龍谷大学のシラバスを見せていただいたのですが、龍谷大学で項目として「授業概要」と挙げているものは、より上位の概念としての、「授業の目的」に近いのではないかと思います。今日紹介する愛媛大学や、金沢大学はどちらかというと「概要」が下位にあるタイプです。細かい受講のルールやオフィスアワー、参照ホームページなども書かれており、金沢大学には「キーワード」「評価の方法」等の項目もあります (p.18～21)。

○課題：実際のシラバス

皆さんにここでやっていただきたいのは、配付したシラバスの例を見て、率直な感想、参考にできる

点、改善すべき点を議論してほしいということです。用意したシラバスは、皆さんが大学で使っているシラバスと目的が違うかと思います。

このシラバスについて、いい点と、改善すべき点を議論し、ホワイトボードにまとめてください。

(グループワーク)



いろいろ見てみましょう。改善点が多い方が私もうれしいです。

目標の書き方について、学生が主体になっている、担当教員の考え方が示されている等の指摘があります。色々と考えていただいていると思いますが、こうやって指摘しあうのは、楽しいですね。

2.授業設計の6つの指針

授業設計において参考となる6つの指針があります。

①学習目標の設定、②到達目標の明確な記述、③学習成果からの逆算的思考、④時間外学習の充実、⑤誰もが納得できる評価の方針を示す、⑥他の教員の授業設計を参考にする、の6点です (p.22)。

○適切な学習目標を設定する

一つ目は学習目標です。これはなかなか難しく、特に専門分野によっては、明確に設定するのはかなり難しいのではと思います。ただ、いろいろなバラ

ンスを取る必要があるというのは、どの授業でも共通ではないかと思います。

バランスを取るべき要素としては、一つはそもそも大学の人材育成像から導かれる「カリキュラム上の位置づけ」が挙げられます。あとは「学問分野の視点」も大事です。次に、どれぐらい学んできているのかという「受講生からの視点」。また「物理的制約条件からの視点」。今この研修をしている部屋(22号館107教室<多目的室>)を使える場合、授業の形態や内容について、色々なイメージが沸くのではないかと思います。TAが付くかどうか、授業の内容には随分反映するのではないかと思います。

それらを考えて、適切な学習目標を設定するということになります (p.23)。

参考情報ですが、心理学では目標は三つに分類されると言われています。「あたま、こころ、からだ」です。知識や理解というような「あたま」のことと、態度に関連する「こころ」の部分、実際にできるかどうかという「からだ」の三つに分けて、シラバスを書いている大学もあります (p.24)。

○到達目標を明確に記述する

次の「到達目標の明確な記述」という点ですが、これもなかなか難しいと言われます。特に語学の先生を中心に、到達目標は、基本的に作れない、一般目標を掲げ、後はは学生の状況を見ながら調整するという先生方も実際にいらっしゃいます。

一つの工夫としては、学習者を主語にしてもらうことです。教員を主語にしたら、教員の目標になってしまうため、学生の行動で示した方が評価が明確になります。

条件や程度を設定することも重要です。例えば水泳で「50メートル泳ぐ」と書くのではなく、「なめらかなフォームのクロールで」とか、「60秒以内

に」といった条件を入れると、より明確になります (p.25、26)。

○学習成果からの逆算的思考をする

次の「学習成果からの逆算的思考」については、1回1回の授業とともに、15回の授業の集合体を大事にして、ゴールから考えていくという考え方です。その場合、初回での導入や、最終回でのまとめが非常に大事になってきます (p.27、28)。

○時間外学習を充実させる

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とし、15時間が講義であるという大学設置基準があり、「時間外学習を充実させる」という観点で「単位の実質化」が政策的に大事と言われていますが、もう少し学生が学習する余地もあるのではないのでしょうか。

名古屋大学で統計を取ったのですが、時間外学習と授業満足度は、ほぼ無相関でした。つまり、宿題をたくさん与えても、授業満足度は下がりも上がりもしないということです。ですから、満足度が下がらないようなので、時間外学習を増やしましょうと言うこともできます (p.29)。

中教審答申では、学修時間を今後の改革の出発点にするということが言われています。この答申を読んで驚いたのは、15年前の約半分と、従来よりも大幅に学習時間の少ない高校生が大学に来ているということで、大学としても把握しておくべき内容です (p.30)。

キャロルの学習モデルは、私の好きな教育学のモデルの一つで、学習の到達度をどう見るかという公式です。

この背景には、誰でもやればでき、能力差ではな

くて時間差と考えると教員の工夫の余地が生まれるのではないかという考え方があります。どうしても学修に時間がかかる学生がいますので、それをきちんと把握することが大事になってきます。これは時間外学習で対応すべきことかと思います (p.31)。

○誰もが納得できる評価の方針を示す

評価についても、誰もが納得できるようなものが理想ですが、なかなか難しいですね。大学では、往々にして今までは成績を甘くつければ文句が出ないだろうという例も多く見られました。しかし、その認識は間違いで、やはり評価について納得してもらうためには、幾つかの方針が必要です (p.32)。

形成的評価について説明すると、小テストなどを大事にして、学生の次のステップにつなげるための評価をし、大学の方針やほかの授業の実践との整合性を高めるという考え方です。同じ科目なのに授業担当者によってあまりにも成績評価の配分が違うのではないかということはよく問題になります。

評価には、いろいろな側面があります。専門家として学修の成果を保証することも要素の一つですが、学修を推進する強力な手段にもなるのです。「ここは試験に出ますよ」と言うと、寝ていた学生も急に起きます。評価も、うまく使えば、授業を成立させるための大事な教員の力だと思います。

ただ、一方で学生に不安を与えたり、トラブルを起こす原因にもなります。特に「期末テストのみで評価をする」ということに関しては、学生にとって一回のテストが成績評価に占めるウエイトが大きいので、トラブルやカンニングが発生しやすいと言われています。できるだけ複数回の評価をするというのが大事になると思います (p.33)。

評価には5つの構成要素があります。一つ大事なのは、基準です。どのような尺度で評価するのかと

いうことです。名古屋大学ではAより優れたS評価に関して相対評価を一部導入しています。組織の中である程度、方針を決めなければならないことではないかと思います。また、評価方法もいろいろあります。よく実施される、テストやレポートでの評価に適さない教育目標を持った科目もあり、教育目標の達成度を測ることができる方法を取ることが重要です (p.34)。

○他の教員の授業設計を参考にする

他の教員の授業設計を参考にすることも重要です。現在多くの大学でシラバスが公開されており、前任者のシラバスや、あこがれの先生のシラバス、海外の大学のシラバスなどが検索すれば出てきます。今、皆さんに見てもらった私のシラバスも、いろいろ海外のものを見ながら作りました。シラバスだけでなく、教材も随分公開されていますので、併せて活用できるのではと思います (p.35、36)。

3.シラバスの各項目別のポイント

これ以降は、項目別のポイントで、簡単に紹介します。皆さんがシラバスを書くときの参考にしてもらえればと思い、資料として付け加えた部分です。

4.まとめ

駆け足で進めさせていただきましたが、まとめると次に述べる内容となります。授業の設計は、教員の授業の質に影響を与えると考えられます。シラバスは、設計した授業の全体像を伝えて、学習を促進する重要な手段です。そういった学生の学習を促す手段として、シラバスを充実させてみてはいかがでしょうか、ということです。今日、提示した方針やポイントは、つまみ食いに取り入れていただければと思います。専門分野によっても異なりますし、個

人の教育感でも変わってきます。

最後に、いただいたタイトルに沿って、シラバスは「誰のため、何のため」のものなのか考えると、恐らく学生という観点と教員という観点、もう一つは教員集団という観点が必要だと思います。

その中でも特に、シラバスを活用して、学生の学習の量と質を向上させていくことが、今後求められてくるのではないかと思います。

今日はこれまで、どちらかというと個人でやることをお話ししてきたのですが、教員組織として考えるべき組織的課題もあると思います。

まず、授業選択と学習支援という2つのシラバスをどう整理するかということだと思います。どの日本の大学でも持っている課題です。

次に、項目や文字数、ウェブでの公開の有無等の事項です。項目や文字数によって中身も変わってくるのではないかと思います。

また、大学として、シラバスや評価の方針を明確にできるのかも重要です。

次は非常に難しいと思うのですが、個々の教員が書いたシラバスを、組織としてチェックするのかどうかです。

その他大事な視点として、シラバスの内容を実現できる教室の配当、学習図書の準備等の図書館サービス、教務課を超えた学内での連携も課題ではないかと思っています。

最後に、シラバスなど教育に関するノウハウを、共有する場を設定することが重要です。

今日は私のシラバスを見ていただいて、いろいろ議論ができたと思うのですが、次はみなさん自身のシラバスで議論するといいのではないかと思います。

少し長くなってしまい、最後は駆け足になりましたが、以上で私からの話題提供とさせていただきます。どうもありがとうございました。

Ⅲ. 質疑応答

(司会) 中井先生、ありがとうございました。せっかくの機会ですので、質問のある先生方、手を挙げていただけますか。

(Q1) 名古屋大学さんの例について少しお聞きしたいのですが、ウェブシラバスはコース選択の際に提示・参照させ、紙ベースのものは授業開始時に配付するという方法は、全学的に方針として決まっているのでしょうか。

(中井) 全学的には決まっています。実際は、ウェブシラバスは各項目の文字数が決まっていますので、ウェブ上に参照リンクを設定し、紙ベースのものをPDFで参照できるようにしています。初回の授業でウェブよりも詳しい内容のシラバスを学生に配付している教員も少なくありません。

(Q2) 「学習と関係のないものは評価対象としない」ということを、詳しく説明頂けますでしょうか。



(中井) 「学習と関係ない」という言葉の意味は、授業の中の学習目標と関係のない基準で評価をしないようにということです。

(Q3) シラバスを充実させた後とさせる前とで、例えば学生の授業アンケートの結果には影響があるのでしょうか。

(中井) 名古屋大学ではシラバスの設計を充実させ、それに伴って、授業満足度も大きく上がりました。本当に直接の因果関係があるかどうかは慎重に考えなければなりません、シラバスがある程度有効に働いたのではないかと考えています。

それまで、シラバスに対して、学生からも多数の批判があったのですが、以前より減りました。

(Q2) 初回に配る行動を取った場合に、学生の満足度の上昇等の相関はあるのでしょうか？

(中井) データを収集しておらず、現在のところ分かりません。

(Q3) p.38で、到達目標の中に「知識、態度、技能の3領域に分ける場合の」という記述がありますが、「知識」と「技能」についてはイメージできるのですが、「態度」について具体的にお教えいただければ幸いです。

(中井) 「態度」というのは、心理学で情意的領域と呼ばれるものです。態度や価値観の変容などが含まれます。多くの大学が人材育成の目標としてこの領域の目標を掲げているはずで、中央教育審議会答申で提示された学士力にも、態度・志向性という項目として、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力が挙げられています。ただし、評価が最も難しい領域です。

(Q4) 授業の中で使っていくシラバスの問題について質問させていただきたいと思います。中教審答申を見ても、シラバスを精密に書いて、詳しくしていくという流れにあると思いますが、私には、うまく機能しないという実感があります。例えば受講者数の多い授業では、課題の事前の提示等、シラバスを読んでこないと授業に参加できないような活用方法は、少人数科目と異なり、難しいのではないのでしょうか。

(中井) 現時点では多人数授業での活用は多くの大学で難しいかもしれません。個々の教員が取り組むだけでなく、組織的に取り組む必要があると思います。まずは、大学では予習復習をしなければ学修が進まないということを、オリエンテーションなり、各授業で常に先生方が何度も伝えることが大事なのではと思います。また、週複数回授業を導入したり学習環境を整えたりすることも重要でしょう。

(Q5) シラバスの持つ性質の中で「契約という要素」について、実際にそのシラバスを書くのは、契約の相手方が見えない状態で書くため、契約の相手方と授業を進めていく時に、思うようにいかないことが出てきます。

現に私などは、同じ名称・配当年次の講義を2コマ担当していますが、それでも進行に違いが出てきます。

シラバスを詳しく書いても、大講義授業では機能していないと感じることが多いですが、どのようにお考えでしょうか。

(中井) 計画を修正したほうが学生の学習にとってよい場合、シラバスに書いているから計画を修正しないというのはよくないと思います。

ただし、修正のやり方は丁寧にすべきだと思います。なぜ修正するのかを丁寧に受講生に説明することが大事でしょう。

(司会) ほかはいかがでしょうか。どうぞ。

(Q6) 予習・復習について悩んでいるのですが。僕の科目では、テキストを指定してないないので、予習よりも復習を重視しています。授業で使うものに加え、復習のための資料を配付し、次回に確認するのですが、よく読んだという学生は、100人中3～4人程度です。どうすれば学生が勉強するようになるのか、名古屋大学の取り組みで参考になるようなことがございましたらご教示ください。

(中井) まずは、無理なく適量の課題を与えることだと思います。初めから学生が負担に感じる重い課題を与え、学生の意欲をそいだり、授業からドロップアウトさせてしまうのでは意味がありません。適切な量の課題をまんべんなく与えていくこと、初めのうちは学生が取り組みやすい課題を与えていくこ

とが重要でしょう。

また、学生から課題を提出してもらったときには、フィードバックを行うことが重要です。

私の知り合いではメディアをうまく利用している教員がいます。メーリングリストに登録させて、授業に関連する新聞記事やテレビ番組を見るようにメールで指示すると、多くの学生が読んでくるらしいのです。また最近、反転授業と呼ばれる授業方法が注目されています。授業時間外に動画による講義を受け、教室では学んだことをもとに議論するといった方法です。この形式は大学教育に合うのかもしれない。

授業以外の学習を管理するのは難しいかもしれません。それだからこそ、学習時間を増やすノウハウを教員集団で共有することが大事になってくると思います。

(司会) 長時間にわたりご参加頂きありがとうございました。これをもって今日の研修会を終わらせていただきます。

誰のため、何のためのシラバスか シラバスの書き方・使い方

2012年11月5日
名古屋大学高等教育研究センター
中井俊樹

1

名古屋大学高等教育研究センター

- 1998年に設置
- 学内の教育改善にどのように関わるのか？
 - ・名古屋大学の報告書の知見や高等教育研究の知見が現場にあまり還元されていないのでは
 - ・現場の教員に役に立つ形で提供する
- 現場志向の研究開発
 - ・研究開発物を通じた教育改善支援
 - ・FD・SD教育改善支援拠点

2

開発物の例



3

話題提供の目的

- 授業設計についての知見やノウハウを紹介することで、シラバスの書き方や使い方に関する議論のきっかけを提供したい

4

構成

- 授業設計とシラバス
- 授業設計の6つの指針
- シラバスの各項目別のポイント

5

授業設計とは

- 授業の青写真を描くこと(鈴木、1995)
- 担当する科目の学習の目標、学習の内容、学習の方法、評価の方法などの全体像を設計すること
- シラバスは、学生に設計した授業の全体像を伝えるための手段

6

なぜ授業設計か

- 授業設計は学生の学習成果や満足度に高い相関がある
- 教師にとってその習得が比較的容易である
- 一度丁寧にシラバスをつくと、次年度以降の授業が楽になる
- 学生がシラバスの充実を求めている
- カリキュラムを考える上で貴重な資料になる
- 大学の外からカリキュラム上の授業の目標の明確化、授業目標の充実化が求められている
- 教員採用・昇進時に提出を求められることがある

7

学生の学習成果に効果がある

- 例：教授法と学生の成果との相関分析研究 (Feldman, 1997)
 - ・30以上の従来の実証研究をレビュー
 - ・教授法28項目と学生の成果との相関係数の平均を算出
 - ・それぞれの教授法が学習成果に与える影響の大きさを相関係数で示す

8

教授法と学生の成果との相関1

- 教員の準備、コースの設計 $r = .57$
- 説明の明確さと理解しやすさ .56
- 授業目標にそった授業 .49
- 授業で期待される学習成果の理解 .46
- 教員による知的刺激 .38
- 学生への高い水準への動機づけ .38
- 質問の促進と他の意見への寛大さ .36

Feldman(1997)

9

教授法と学生の成果との相関2

- 教員の会いやすさと親切さ .36
- 教員の話し方のスキル .35
- 授業目標と履修要件の明確さ .35
- 教員の科目内容の理解度 .34
- クラスの水準や進捗への理解 .30
- 教員の熱意 .27
- 評価における教員の公正さ .26

Feldman(1997)

10

授業設計において大事な問い
(Mager, 1984)

- Where are we going?
 - ・ 授業の到達目標はどこなのか？
- How do we get there?
 - ・ どうやって授業の目標に到達するのか？
- How do we know we've arrived?
 - ・ 授業の目標に到達したかどうかをどのように評価するのか？

11

シラバスとは

各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学修等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学修等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。アメリカでは、教員と学生の契約書と理解されている例もある。授業内容の概要を総覧する資料（いわゆるコース・カタログ）とは異なり、科目の到達目標や学生の学修内容、準備学修の内容、成績評価の方法・基準の明示が求められる。

（中央教育審議会、2012）

12

大学設置基準

- 第二十五条の二 大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。
- 2 大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

13

日本のシラバスの特殊性

- 1990年代半ばからアメリカの大学で使用されていた授業要覧とシラバスが混同されて日本の大学で普及
- 中央教育審議会の定義でもさまざまな目的が混在
- 日本では、目的の異なる2つのもの、もしくはそれらを統合したものをシラバスと呼ぶ
- 授業改善と求められるのは、アメリカでいうコースカタログの充実ではなくシラバスの充実

14

コースカタログとシラバスの違い

	コースカタログ (Course Catalog)	シラバス (Syllabus)
役割	■ 学生が履修科目を選択する際に参考になる情報を提供する ■ 社会に対する大学の説明責任を果たすための情報を提供する	■ 学生がその科目の学習を進める際の学習の手引きを提供する ■ FDにおいて、他の教員から授業目標の書き方や課題の出し方を学び合う資料を提供する
特徴	■ その分野の専門家でなくても理解できるように書く ■ 一覧性を確保するために簡潔に書く	■ 学生が学習を進める上で必要な情報が盛り込まれている ■ 詳細で長いものになる場合がある

15

シラバスの役割

- 学生の授業選択のガイド
- 優れた受講生を募集するツール
- 学生と教員の契約書
- 学生の学習効果を高める手段
- 教員と学生の人間関係づくりのツール
- 授業の雰囲気伝える
- 授業全体をデザインする
- カリキュラム全体に一貫性をもたせる

16

学生と教員の契約書としての機能

- 学生と教員の双方が授業の成立に責任をもつことを促す
- 「今日提出のレポートがあるなんて知りませんでした」と言われたとしても、「初回の授業でシラバスを配布してたでしょう」
- 成績評価の方針の明確化
- 教員もシラバスに沿って授業を進める義務を負うことにも

17

シラバスの項目の例1

- 授業に関わる基本情報
 - ・ 学習目標、授業で扱う内容
- 教員に関わる情報
 - ・ 名前、研究室の場所、内線電話番号、メールアドレス、オフィスアワー、ティーチングアシスタントの名前、連絡先、教育観
- 授業のスケジュールに関わる情報
 - ・ 各回で扱う内容、各回までに行う課題の内容、課題の提出方法と期限
- 受講生に関わる情報
 - ・ 受講に必要な知識とスキル、受講条件

18

シラバスの項目の例2

- 成績評価に関わる情報
 - ・ 評価の基準、評価の方法、配点
- 教材に関わる情報
 - ・ 教科書とその入手方法、その他の補助教材とその入手方法、参考図書(図書館での所在)、参考になるウェブページのアドレス
- 受講のルールに関わる情報
 - ・ 授業中に守るべきルール、資料配布のルール、課題提出のルール、教員へのコンタクトの方法

19

愛媛大学の例

- | | |
|------------------|-------------------|
| ■ 授業題目 | ■ 受講条件 |
| ■ 授業のキーワード | ■ 受講のルール |
| ■ 授業の目的 | ■ 教科書 |
| ■ 授業の到達目標 | ■ 参考書 |
| ■ 授業概要 | ■ 教科書・参考書に関する補足情報 |
| ■ 授業スケジュール | ■ オフィスアワー |
| ■ 授業時間外学習にかかわる情報 | ■ 連絡先 |
| ■ 成績評価方法 | ■ 参照ホームページ |
| | ■ その他 |

20

金沢大学の例

- | | |
|--------------|----------------------------|
| ■ 授業科目名(英文名) | ■ テキスト・教材・参考書等 |
| ■ キーワード | ■ その他履修上の注意事項や学習上の助言 |
| ■ 授業の主題 | ■ オフィスアワー等(学生からの質問への対応方法等) |
| ■ 授業の目標 | ■ 受講者調整の方法 |
| ■ 学生の学習目標 | |
| ■ 授業の概要 | |
| ■ 評価の方法 | |
| ■ 評価の割合 | |

21

授業設計の6つの指針

- 適切な学習目標を設定する
- 学習目標を明確に記述する
- 学習成果からの逆算的思考をする
- 時間外学習の学習を充実させる
- 誰もが納得できる評価の方針を示す
- 他の教員の授業設計を参考にする

22

1. 適切な学習目標を設定する

- カリキュラム目標からの視点
 - ・ カリキュラム全体の目標、担当授業のカリキュラムの中の位置づけ、他の授業との関連
- 学問分野からの視点
 - ・ 学問分野において何が本質的で重要か
- 受講生からの視点
 - ・ 受講生の予備知識と能力、関心、学習習慣、卒業後のキャリア
- 物理的制約条件からの視点
 - ・ 教室の特徴、情報機器、受講者数、TAなどのサポート

23

参考 目標分類学(タキソノミー)

- 認知的領域(あたま)
 - ・ 知識、理解、応用、分析、統合、評価
- 情意的領域(こころ)
 - ・ 受け入れ、反応、価値づけ、組織化、個性化
- 精神運動的領域(からだ)
 - ・ 模倣、巧妙化、精密化、分節化、自然化

24

2. 到達目標を明確に記述する

- 授業の目標を明確にするのは難しい
 - ・「進化論について考察する」、「労働市場を概観する」
- 学習者を主語にする
 - ・教員を主語にしたら教員の目標
- 学生の行動で目標を示す
 - ・行動で示すと評価が明確になる
- 条件や程度を設定する
 - ・「なめらかなフォームのクロールで」、「60秒以内に50メートルを」

25

参考 工学的アプローチと羅生門的アプローチ

- 工学的アプローチ
 - ・工業製品の生産モデル
 - ・合理性、効率性、計画性を重視
 - ・細分化、整理された目標、その目標を達成するための教材や授業の設計、事前に設定された評価
- 羅生門的アプローチ
 - ・一般的な目標を設定するにとどめる
 - ・授業の中で教材の価値を発見、即興による授業、多様な評価

26

3. 学習成果からの逆算的思考をする

- 一回一回の授業と同時に15回のまとめとしての授業を大事にする
- 最終成果(到達目標)を明確にして、それにそった授業内容を考える
 - ・「授業が終わったら学生は何を身につけているのか」を考えてから、「どうやって授業をするか」を考える
 - ・「ゴールがはっきりしているから、途中過程のバスの意味がある」(向後、2003)
- 初回での導入と最終回でのまとめは重要

27

参考 経験主義と系統主義

- どの順序で教えるか
- 経験主義
 - ・学習者の生活経験の広がりや認識の発達を第一の条件としてカリキュラムを編成
 - ・生活から題材を拾う
 - ・「35円のおかしを買い、50円を出した時のおつりは」
 - ・同心円の拡大法(家族、学校、地域…)
- 系統主義
 - ・科学・技術などの知識や原理を第一の条件としてカリキュラムを編成
 - ・「50-35より68-35の方を先に教えるべき」(繰り下がりが)

28

4. 時間外学習の学習を充実させる

- 大学に入って学習時間をどのようにやりくりしたらよいかにとまどう学生は少なくない
- 単位の実質化
 - ・1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容(大学設置基準第21条)
- データで見る限り時間外でもう少し学習する余地はありそう
- 名古屋大学のデータからは、時間外学習の増加が授業満足度の低下に影響しない
 - ・時間外学習の量と授業満足度の間は無相関

29

参考 学修時間への注目

- 学生の学修時間が短い(学期中1日当たり4.6時間)。
- 国民、産業界、学生は、学士課程教育改善の到達点に不満足。
- 学長、学部長は、学生の汎用的能力や授業外の学修時間について不満足。
- 高校生も学力中間層の勉強時間が最近15年間で約半分に減少。



- 質的転換の好循環を作り出す始点としての学修時間の増加・確保が必要。
 - ・教育課程の体系化(授業科目の整理・統合を含む)、組織的な教育の実施、授業計画(シラバス)の充実、全学的な教学マネジメントの確立

(中央教育審議会、2012)

30

参考 キャロルの学習モデル(Carroll, 1963)

$$\text{学習到達度} = \frac{\text{学習に費やされた時間}}{\text{学習に必要な時間}}$$

- 自分に必要な時間を費やせば、ほとんどの人は学習課題を達成することができる
- 学習成果の差は能力差ではなく時間差と考えると、教員の工夫の余地が生まれる

31

5. 誰もが納得できる評価の方針を示す

- 成績を甘くつけるのではない
- 評価の基本方針
 - ・評価の方針を明確にする
 - ・恣意的だと感じさせない
 - ・学生の学習活動を促す
 - ・複数回の評価、形成的評価の重視
 - ・大学の方針や他の教員の実践と整合させる
 - ・公平性という観点

32

授業における評価

- 学習成果を専門家として保証する
- 学習を推進する強力な手段
 - 「ここは試験に出ますよ」、「指定した本を読ん
でください」という教員の言葉の力
- 学生に不安を与えたり、トラブルを起こす原因にも
- 落第点を与えることに抵抗感をもつ教員も
- 自分の授業の出来ばえとの関係

33

参考 評価の構成要素

- 評価主体: 誰が
 - ・ 教員、学生自身、学生相互、外部者
- 評価対象: 何を
 - ・ 学習成果、学習意欲、学習習慣
- 評価目的: 何のために
 - ・ 成績判定、学習の改善、授業の改善
- 評価基準: どのような尺度で
 - ・ 設定した到達基準、集団の中での相対的な位置
- 評価方法: どのようにデータを収集するか
 - ・ 筆記テスト、完成作品、実演、観察、対話、ポートフォリオ

34

6. 他の教員の授業設計を参考にする

- 現在、多くの大学でシラバスが公開されている
- 参考となるシラバス
 - ・ 前任者のシラバス
 - ・ あこがれの先生のシラバス
 - ・ インターネットでの検索(例:「シラバス」+授業名)
 - ・ 海外の大学のシラバス

35

公開されているシラバスや教材

- 講義ノート、課題、試験などの内容も公開している大学の増えている
- オープンコースウェア
 - ・ MITのOCW
 - ・ 日本でも、名古屋大、東大、京大、阪大、慶応大、早稲田大などがOCWのサイトをもつ



36

授業概要(授業の目的)

- 授業の存在意義
- 「なぜこれを学ばなければならないの?」という問いへの答え
- 「～するために」を入れるとよい
- 方向性を示す目的
- 授業の中での重要な問い

37

到達目標

- 授業終了段階で、学生にできるようにしてほしい事を「〇〇できる」のように動詞を使って表現
- 授業の目的を具体化したもの(数個から10数個)
- 学生を主語にする
- 観察可能な行動で記述する
- 条件と基準で明確にする
- 知識・態度・技能の三領域に分ける場合も

38

講義計画

- 到達目標と対応させる。
- 授業で扱う内容を大まかに記述
- 無理のない進度で
- わかりやすい流れに
- 授業時間外の学習の指示

注 シラバスを変更する際は、学生に変更の理由を説明し、シラバスを修正する

39

成績評価

- テストやレポートの内容、提出期限、時期を明記する
- 基準、配分割合を明記する
- 到達目標と対応させる
- 成績評価基準は測定可能なものにする
- 複数回の実施
- 多様な評価方法
- 学習と関係のないものは評価対象としない

40

教科書・参考文献

- 教科書を使用する場合は、入手可能なことを確認した上で書名、著者、出版社、出版年、価格に関する正確な情報を記入
- 授業中に直接使用しない場合は、どのように使うのかを明示する。明示できない場合は、参考書扱いとする。
- 雑誌、ホームページ、セミナー等の情報提供も有効

41

履修条件

- 学生のニーズと授業内容とのミスマッチを防ぐため、事前に履修が必要な科目や能力を記載する

42

受講のルール

- 資料配布方法
 - ・「資料の予備は保管しません。出席者同士でコピーをすること」
- 守るべきルール
 - ・「授業中の飲食禁止」
- 不正行為の取り扱い
- 教員へのコンタクトの方法

43

まとめ

- 授業の設計は授業の質に影響を与える
- シラバスは設計した授業の全体像を伝え、学生の学習を促進する有効な手段
- 学生の学習を促す手段としてシラバスを充実させては
- 今日提示した方針やポイントはつまみ食いに取り入れていただければ

44

誰のため、何のためのシラバスか

- 学生
 - ・ 学習の量と質の向上、学習の指針、授業選択の手段
- 教員
 - ・ 授業の質の向上、授業の効率化、授業の方針の伝達、授業全体の構造化と明示化
- 教員集団
 - ・ カリキュラム全体の一貫性、教育の透明性、入学希望者などへの情報提供、外部からの評価への対応

45

組織的な課題

- 授業選択のためのシラバスと学習支援のためのシラバスをどのように整理するか
- 項目、文字数、ウェブでの公開の有無などの仕組み
- 大学としてシラバスや評価の方針を明確にできるか
- 個々の教員が書いたシラバスを組織としてチェックするか
- シラバスで書かれた授業を支援する教室環境や図書館サービスを提供できるか
- シラバスなど教育に関するノウハウを共有する場を設定できるか

46

主な参考文献

- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2001)『成長するティップス先生ー授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部。
- 向後千寿(2003)『インストラクショナル・デザインWorkbook』。
- 佐藤浩章(2009)『シラバスの書き方のコツ』SPODフォーラム2009配布資料。
- 鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル』北大子書房。
- 夏目達也、近田政博、中井俊樹、齋藤芳子(2010)『大学教員準備講座』玉川大学出版部。
- Carroll, J. B. (1963) A Model of School Learning, Teachers College Record, 64, pp.723-733.
- Dick, W. and Carey, L. (1978) *The Systematic Design of Instruction*, Scott, Foresman and Company.
- Feldman, K. (1997) "Identifying Exemplary Teachers and Teaching: Evidence from Student Ratings" in Perry, P. and Smart, J. (Eds.), *Effective Teaching in Higher Education: Research and Practice*, Agathon Press.
- Mager, R. F. (1984). *Preparing instructional objectives (2nd ed.)*, Belmont, Fearon-Pitman.

47

資料 大学構成員を対象とした開発物

- 【書籍】
- 中井俊樹、上西浩司編(2012)『大学の教務Q&A』玉川大学出版部
 - 夏目達也、近田政博、中井俊樹、齋藤芳子(2010)『大学教員準備講座』玉川大学出版部
 - 近田政博(2009)『学びのティップス 大学で鍛える思考法』玉川大学出版部
 - 中井俊樹編(2009)『大学生のための教室英語表現300』アルク
 - 中井俊樹編(2008)『大学教員のための教室英語表現300』アルク
 - 池田輝政、戸田山和久、近田政博、中井俊樹(2000)『成長するティップス先生』玉川大学出版部
- 【ハンドブックなど】
- 『名古屋大学新任教員ハンドブック』(2012)、『Mei-Writing 日本語版 論理的に書く技法』(2012)、『名古屋大学教員のための留学生受け入れハンドブック』(2011)、『Eight Principles for Linking Research and Teaching』(2010)、『協賛授業実践ハンドブック』(2010)、『アカデミックガイド』(2010)、『学位への道』(2009)、『経済学英語ハンドブック 授業で使える例文集』(2009)、『研究者のための科学コミュニケーションStarter's Kit』(2008)、『Researching Japanese Higher Education: 1998-2008』(2008)、『ティップス先生のカリキュラムデザイン』(2007)、『ティップス先生からの7つの提案』(教員編)(学生編)(大学編)(2005)、『IT活用授業編』(2006)、『教務学生担当職員編』(2007)、『大学院生編』(2011)、『プロフェッショナルスクールのための授業設計ハンドブック』(2004)、『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』(2006)、『eラーニングハンドブック』(2003)

(注) 下線を引いたものはウェブ上で公開

48

【 重要 】

シラバス

高等教育内容論—学士課程教育論

名古屋大学教育発達科学研究科授業科目(高度職業人養成コース)

2 単位

担当教員: 中井俊樹(名古屋大学高等教育研究センター)

文系総合館 509 号室

2012 年度後期

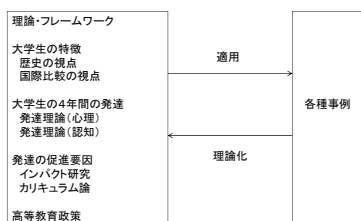
水曜 6 時限目(18:30~20:00)

*Students learn more when they are involved. Astin, A. (1984)**School Learning = f (Time Spent / Time Needed) Carroll, J. (1963)*

授業の概要

これまで教育学者たちは、どのような条件において大学生の学習や発達が促進されるのかについて実証的研究を積み重ね、教育成果に影響を与えるであろう教員の働きかけや組織的支援を明らかにしてきました。この授業では、これらの研究成果や実践事例をもとに、学生が大学でより学び発達するための条件を理解し、現場の教育的課題を解決する力を身につけることを目指します。

授業の全体像



1

授業の目標

この授業が終了したときに、受講者のみなさんが以下のような知識や能力を身につけることを目標にします。

- ・ 現代の日本の大学生の特徴を理解し、自分の言葉でまとめられるようになる
- ・ 大学生の学習・発達とその要因を説明するさまざまな理論の特徴を理解し、それぞれの違いを説明できるようになる
- ・ 学士課程教育における論点と課題を理解し、今後の課題解決に関する自分なりの考えを説明できるようになる
- ・ 大学生の発達を促進する優れた実践事例を分析し、どの点が優れているのか、また他大学への適用可能性を説明できるようになる
- ・ 大学教育に関する多様な考え方や経験で培った事例を尊重し、共に教え学びあう雰囲気貢献する

この授業で大事にしている問い

- ・ 現代の日本の大学生はどのような特徴をもっているのか
- ・ 現代の日本の大学生はどのような課題をもっているのか
- ・ 大学生は大学の4年間でどのような学習・発達をするのか
- ・ 大学生は大学の4年間でどのような学習・発達をすべきなのか
- ・ 大学生の学習や発達をどのように評価することができるのか
- ・ 大学生の学習・発達を促進する要素、および阻害する要素はどのようなものか
- ・ 大学が大学生の学習・発達を促進するためにどのようなことができるのか
- ・ カリキュラム編成の構成要素と原理にはどのようなものがあるか
- ・ 学士課程教育において何が重要な論点なのか、そしてこれまで何が明らかにされ、また何が明らかにされていないのか
- ・ 優れた大学教育の実践はどのような特徴があるのか
- ・ 大学教育に関する知見は、どのように実践に活用できるのか

主要参考書

古市憲寿(2011)『絶望の国の幸福な若者たち』講談社。

山田礼子(2012)『学士課程教育の質保証へむけて—学生調査と初年次教育からみえてきたもの』東信堂。

ボイヤー(1996)『大学教授職の使命—スカラーシップ再考』玉川大学出版部。

中留武昭(2012)『大学のカリキュラムマネジメント—理論と実際』東信堂。

ハワード(2012)『IR 実践ハンドブック 大学の意思決定支援』玉川大学出版部。

2

担当教員

この授業は名古屋大学高等教育研究センター准教授中井俊樹が担当します。中井研究室は文系総合館 515 号室です。私の主な専門領域は高等教育論です。大学では学生は何を学ぶべきか、そしてどのような条件で学生はより学ぶのかということに関心があります。学生の学習に影響を与えるものはたくさんありますが、特に教授法を中心に研究を進めています。私の詳しい研究テーマや研究成果に興味があれば以下のホームページを参考にしてください。

特定のオフィスアワーは設けませんが、事前にアポイントをとってもらえれば、授業の内容に関する質問などを答える時間を調整します。私宛に課題などの郵便物を送る場合、電話連絡する場合、メール連絡する場合は以下のものを利用してください。

住所 464-8601 名古屋千種区不老町 名古屋大学高等教育研究センター
電話 052-789-5385
メール nakai@cshe.nagoya-u.ac.jp
URL http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/staff/nakai.html

メッセージ: 大学院生の中には「知の狩人」に変身する学生も少なくありません。大学院での知的探求のプロセスを十分に楽しんでください。この授業のシラバスでは、各回の概要や課題の内容をあらかじめ示しています。自分のペースでしっかりと学習を進めてください。

成績評価

授業への参加、文献の講読と紹介、3つの課題をもとに、授業の目標にどれほど到達しているのかという基準で成績評価を行います。最終の成績評価におけるそれぞれの配分は以下の通りです。

授業への参加	15 %
文献レビュー	15 %
課題1: 現代の大学生の特徴	
発表	10 %
レポート	10 %
課題2: 学士課程教育の年表	
発表	10 %
レポート	10 %
課題3: 実践事例の分析	
発表	15 %
レポート	15 %
合計	100 %

3

授業への参加

できるだけすべての授業に出席してください。また、単に出席だけでなく授業時間内の学習活動にも積極的に関わってください。この授業では多様な経験をもった学生が集まっています。受講者が職場などで培ってきた経験や考え方は、自らの貴重な教育資源になるとともに、クラスの他の人にとっても貴重な教育資源です。クラスのディスカッションに積極的にそして建設的に参加することを期待されています。また、クラス内で共有したほうがよいと思われるものは、授業の初めの時間に「共有情報タイム」を作りますので、進んで情報提供してください。

文献レビュー

学士課程教育に関わる重要な文献の内容と意義を報告します。担当になった文献を読み、(1)文献の内容、(2)文献の意義、(3)文献からあなたが学んだこと、をまとめてください。配付レジメは、A4用紙1ページにまとめてください。発表は 10 分以内で重要な点を紹介してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。なお自分が担当でない場合も、文献一通り目を通していき、授業内で議論ができるよう準備をしてください。

課題1: 現代の大学生の特徴

現代の大学生の実態について、さまざまな大学や機関が調査し報告書や論文としてまとめています。この課題では、現代の大学生の実態を把握するにあたって有効であると思われる一つの調査結果を選択し、授業の中でそのハイライトを紹介してもらいます。発表の内容には、(1)選択した調査の出所(2)その調査を選択した理由、(3)調査の目的と方法、(4)調査結果のハイライト、(5)この結果から学べることを、含めてください。レポートは、A4用紙2ページ程度にまとめてください。発表は 10 分程度で、レポートのハイライトを中心に準備してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

課題2: 学士課程教育の年表

この課題では、学士課程教育に影響を与えたさまざまな重要なイベントを年表としてまとめます。10 のイベントを対象にします。そしてイベントがどのような影響を与えたのかを下記のようにそれぞれまとめます。レポートは、A4用紙2ページ程度にまとめてください。発表は 10 分程度で、レポートのハイライトを中心に準備してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

例) 1991 年 大学設置基準の大綱化

大学の開設科目に関する規制が簡素化されるとともに、自己点検評価のシステムが努力義務化された。教養部の解体、カリキュラム改革、評価システムの導入などさまざまな改革を各大学が実施する発端と位置づけられる。後の認証評価制度の創設の契機としても位置づけられる。

4

課題3:優れた実践事例の分析

この授業で学んだことを用いて、大学生の発達を促進する優れた実践事例をとりあげ、分析します。分析にあたっては、(1)対象大学の特徴、(2)取り組みの内容と特徴、(3)期待される成果と実際の成果、(4)残されている課題、(5)この事例分析から学べることを含めてください。レポートは、A4用紙3ページ程度にまとめてください。また発表は15分程度で、レポートのハイライトを中心に報告してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

レポートの書式と提出方法

- ・ 参考文献はすべてリストする
- ・ A4用紙を使用する
- ・ すべてのページにページ番号をつける
- ・ ホッチキスでとめて提出する
- ・ 担当教員にメールでも送る

クラス内の方針

特別な学習支援を必要とする学生:身障者など特別な学習支援を必要とする学生は、すみやかに担当教員に連絡してください。学習を支援できるようなクラス環境や授業方法について検討します。

受講者の学習権:他の受講者の学習環境を阻害するような行動をとる者に対しては履修を取り消すように求めることがあります。

不正行為:大学での不正行為とは、カンニング行為によって自分の能力を不正確に伝えたり、他人の論文などを剽窃したりすることで他人の権利を侵害することなどがあたります。万が一、不正行為があった場合は、教育発達科学研究科の規則にそって対応します。

ハラスメント:名古屋大学ではハラスメント防止基本宣言を定め、大学のすべての構成員が、お互いに自由と権利を尊重しあうことが不可欠であるとしています。万が一、ハラスメントが発覚した場合は、厳格に対応します。また名古屋大学にはハラスメント相談センターがあり専門のカウンセラーがいます。

名古屋大学ハラスメント相談センター

<http://www.sh-help.provost.nagoya-u.ac.jp/>

電話 052-789-5806(9時00分～17時00分)

facebookの活用

授業ではfacebookのグループを用意します。共有すべき情報の紹介、質問と回答などにおいてfacebookを活用したいと考えています。

授業のスケジュール

第1回(10/3) オリエンテーション

- ー 自己紹介
- ー この授業に関する説明
- ー 最近の学生の不思議
- ー 学生時代にどのような力が身についたか
- ー シラバスの内容の確定
- ー 文献講読の担当決め
- ー facebookの準備

第2回(10/10) 思考力とコミュニケーション力1

- ー 思考力とコミュニケーション力に関する事前テスト
- ー テスト終了後にテキストの配付

第3回(10/17) ゲストセミナー

学習研究が教育改革・FD/SDにどのような影響を与えるか
森 朋子 氏(島根大学教育開発センター)

第4回(10/24) 大学生像の変遷・現代の大学生の実態

- ー アメリカの大学生像の変遷
 - ー 日本の大学生像の変遷
 - ー 現代の大学生の特徴
 - ー 大学生の実態を把握するデータ
 - ー 文部科学省各種統計情報
 - ー The Chronicle of Higher Educationの統計情報
- 古市(2011)

第5回(10/31) 現代の大学生の特徴

課題1 発表およびレポート締切

第6回(11/7) 思考力とコミュニケーション力2

- ー 思考力とコミュニケーション力に関する確認テスト
- ー 大学生に求められる思考力とコミュニケーション
- ー 汎用的技能の評価のあり方

第7回(11/14) 大学生の発達理論

- ー アメリカの大学生の発達理論の類型
 - ー チェカリングの7つのペケル
 - ー ベリーの発達理論
 - ー ティントの理論
 - ー その他のアメリカの大学生の発達理論
 - ー 理論を実践にどのように適用するか
- 山田(2012)

第8回(11/21) 教育成果に影響を与える要因

- ー 教育成果とその説明要因に関する実証研究
 - ー カレッジ・インパクト
 - ー FD
- ボイヤー(1996)
授業に関する中間フィードバック

第9回(11/28) カリキュラム編成の構成要素と原理

- ー 経験主義と系統主義
 - ー 工学的アプローチと羅生門的アプローチ
 - ー スコープとシークエンス
 - ー カリキュラムの分化と統合
- 中留(2012)

第10回(12/5) ケースで学ぶ大学教育

- ー ケースで学ぶ大学教育のリーダーシップ

第11回(12/12) 教育の質保証とIR

- ー IRに関わる動向
 - ー IR部門の役割
 - ー 学生調査とIR
- ハワード(2012)

第12回(12/19) 学士課程教育改革の歴史

- 課題2 発表およびレポート締切
- ー 学士課程教育に関する政策動向
- ー 個別大学における先進的事例
- ー 学士課程教育に関する論点

第13回(1/16) 優れた実践事例の分析1

- ー 実践事例の分析の最終発表

第14回・第15回(1/23) 優れた実践事例の分析2

- ー 実践事例の分析の最終発表
 - ー これまでの授業のまとめ
 - ー 授業に関するフィードバック
- 課題3 発表およびレポート締切

参考文献

- 有本章編(2003)『大学のカリキュラム改革』玉川大学出版部。
有本章・羽田貴史・山野井教徳(2005)『高等教育概論』ミネルヴァ書房。
池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2001)『成長するティップス先生ー授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部。
京都大学高等教育研究開発推進センター編(2003)『大学教育学』培風館。
武内清編(2003)『キャンパスライフの今』玉川大学出版部。
中井俊樹(2006)「クラス規模は授業にどのような影響を与えるのか」『名古屋高等教育研究』第6号、pp.5-19。
名古屋大学高等教育研究センター(2007)『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』。
夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子(2010)『大学教員準備講座』玉川大学出版部。
日本高等教育学会編(2005)『学士学位プログラム』高等教育研究第8集、玉川大学出版部。
日本高等教育学会編(2008)『大学生論』高等教育研究第11集、玉川大学出版部。
溝上慎一編(2002)『大学生論ー戦後大学生論の系譜をふまえて』ナカニシヤ出版。
溝上慎一(2004)『現代大学生論ーユニバーシティ・ブルーの風に揺れる』日本放送出版協会。
橋本鉈市編(2010)『大学生ーキャンパスの生態史』玉川大学出版部。
速水敏彦(2006)『他人を見下す若者たち』講談社。
山内乾史(2004)『現代大学教育論』東信堂。
P. サックス(後藤将之訳)(2000)『恐るべきお子さま大学生たちー崩壊するアメリカの大学』草思社。
F. B. ニュートン・エンダー編(岡田臣・中川米造訳)(1986)『大学の学生指導ー成長モデルの理論』

と実践』玉川大学出版部。

Chickering, A. W., Reisser, L. (1993) *Education and Identity, 2nd Ed.*, Jossey-Bass.
Pascarella, E. T., Terenzini, P. T. (1991) *How College Affects Students*, San Francisco: Jossey-Bass.

雑誌

『文部科学白書』(文部科学省、年刊)
『IDE現代の高等教育』(IDE大学協会、年 10 回、1954～)
『大学と学生』(日本学生支援機構、月刊、1966～2011)
『留学交流』(日本学生支援機構、月刊、1988～)
『大学時報』(日本私立大学連盟、隔月刊、1952～)
『教育芸術新聞』(日本私立大学協会、週刊、1953～)
『大学行政管理学会誌』(大学行政管理学会、年刊、1997～)
『大学教育学会誌』(大学教育学会、年刊、1980～)
『高等教育研究』(日本高等教育学会、年刊、1998～)
『初年次教育学会誌』(初年次教育学会、年刊、2008～)
『リメディアル教育研究』(日本リメディアル教育学会、年2回、2006～)
『大学マネジメント』(大学マネジメント研究会、月刊、2005～)
『大学創造』(高等教育研究会、年2回、1994～)
『大学創造別冊 大学職員ジャーナル』(高等教育研究会、年刊、1996～)
『大学と教育』(東海高等教育研究所、全 49 号、1991～2009)
『カレッジマネジメント』(リクルート、隔月刊、1983～)
『Between』(進研アド、隔月刊、1987～)
『文部科学 教育通信』(ジヤース教育新社、月2回、2000～)
『切抜き速報 教育版』(ニホンミック、月刊、1968～)

ウェブサイト

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
大学入試センター <http://www.dnc.ac.jp/>
日本学生支援機構 <http://www.jasso.go.jp/>
国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/>
国立大学財務・経営センター <http://www.zam.go.jp/>
日本学術振興会 <http://www.jsps.go.jp/>
大学評価・学位授与機構 <http://www.niad.ac.jp/index.html>
大学基準協会 <http://www.juaa.or.jp/>
日本高等教育評価機構 <http://www.jihe.or.jp/>
国立大学協会 <http://www.kokudaikyo.gr.jp/>

9

公立大学協会 <http://www.kodaikyo.org/>
日本私立学校振興・共済事業団 <http://www.shigaku.go.jp/>
日本私立大学連盟 <http://www.shidai.or.jp/>
日本私立大学協会 <http://www.shidaikyo.or.jp/>
日本私立大学団体連合会 <http://www.shidai-rengoukai.jp/index.html>
日本私立医科大学協会 <http://www.idaikyo.or.jp/top.html>
日本私立短期大学協会 <http://www.tandai.or.jp/index.php>
大学出版部協会 <http://www.ajup-net.com/>
文教協会 <http://www.bunkyoikyokai.or.jp/>
日本学術会議 <http://www.scj.go.jp/>
IDE 大学協会 <http://ide-web.net/index.html>
大学評価学会 <http://www.unive.jp/>
大学行政管理学会 <http://juam.jp/>
日本高等教育学会 <http://www.gakkai.ne.jp/jaher/>
大学教育学会 <http://www.daigakuyoiku-gakkai.org/>
初年次教育学会 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jafye/>
日本リメディアル教育学会 <http://www.jade-web.org/>
大学マネジメント研究会 <http://anum.jp/>
高等教育研究会 <http://www.bekkoame.ne.jp/ha/shes/>
日本高等教育開発協会 <http://www.jaed.jp/>
日本オープンコースウェア・コンソーシアム <http://jocw.jp/>
大学職員サポートセンター <http://usc.careervista.jp/>
日本私立大学教職員組合連合 <http://www.jfpu.org/>
キャンパス・セクシャル・ハラスメント全国ネットワーク <http://www.jca.apc.org/shoc/>
私大職員研修センター <http://www012.upp.so-net.ne.jp/TUS/>
FMICS(高等教育問題研究会) <http://www.fmics.org/>
大学職員 network <http://sns.university-staff.net/>
全国障害者支援センター <http://www.ncsd.jp/>
全国大学生活協同組合連合会 <http://www.univcoop.or.jp/>
大学コンソーシアム京都 <http://www.consortium.or.jp/>
地域科学研究会高等教育情報センター <http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/>
ベネッセ教育研究開発センター <http://benesse.jp/berd/>
日本能率協会 <http://www.jma.or.jp/edu/school/>
朝日新聞「教育」<http://www.asahi.com/edu/>
毎日新聞「大学・大学院」<http://www.mainichi.jp/life/edu/university/>
読売新聞「教育」<http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/>

10

産経新聞「教育」<http://sankei.jp.msn.com/life/newslist/education-edc-n1.htm>
The Chronicle of Higher Education <http://chronicle.com>
Times Higher Education <http://www.timeshighereducation.co.uk/>
POD Network <http://www.podnetwork.org/conferences.htm>
NASPA <http://www.naspa.org/>
ACPA <http://www2.myacpa.org/>

メーリングリスト

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/magazine/>
サイエンス・サポート・アソシエーション http://sci-support.org/?page_id=27/
全国大学高専教職員組合 <http://zendaikyo.or.jp/maillinglist/maillinglist.htm>
広島大学高等教育研究開発センター http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/news_mail.php
京都大学高等教育研究開発推進センター <http://kyoto-u.s-coop.net/asagao/>
名古屋大学高等教育研究センター <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/>
地域科学研究会 <http://chiikikagaku-k.co.jp/company/mailmaga/mailmaga.html>
私立大学メーリングリスト(日本私大連書記局)
http://www.jfpu.org/mailling%620list/maillinglist_guide.htm
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/xoops/modules/tinyd1/index.php?id=22&tmid=38>
全国カ尔特対策大学ネットワーク
http://religion.web.infoseek.co.jp/religion/univ_cult_ml/index.htm
University World News <http://www.universityworldnews.com>

11

FDサロンレポートとは

大学教育開発センターでは、教職員間の交流の場として、各種の教育活動の経験や意見が話し合えるように「FDサロン」を2002年10月から開催しています。

大学教育開発センターの運営に関わる教職員が、話題提供者をコーディネートし運営されています。話題提供者のお話に耳を傾け、お茶でも飲みながら自由に意見交換等が行える機会として定着してきました。しかし、開催時間や開催場所の問題から、参加ができないとの声も聞かれます。そのようなことから、FDサロンでの話題をもっと全学に還流させ、FDの取り組みを深めていくためにFDサロンレポートを発行しております。

FDサロンレポート 12-3

発行日：2013年3月

発行：龍谷大学 大学教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL. 075-645-2163 FAX. 075-645-2190

<http://www.fd.ryukoku.ac.jp>